

## 課題解決の狙いと評価軸(案)

再配置案を比較検討するための評価軸(案)を提示し、評価軸の妥当性、追加すべき評価軸などについて議論しました。第4回WSの話し合いの概要は3、4ページをご覧ください。今回の意見を基に評価軸を見直した後、再配置案をそれぞれ評価していきます。

課題解決の狙い	評価軸(案)	案A	案B	案C
①地域のまとまりや一体感を形成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民同士が交流できる居場所は確保しているか</li> <li>●誰もが気軽に利用できる施設になっているか</li> <li>●バリアフリー施設となっているか</li> <li>●多世代が交流できるスペースは確保されているか</li> <li>●幅広い年代が使える施設となっているか</li> <li>●身体を動かす広いスペースは確保されているか</li> <li>●大人数が集まるスペースや施設は確保されているか</li> <li>●地域の拠点施設として活性化は見込めるか</li> </ul>			
②子育ての環境、若者や高齢者の居場所をつくり、地域を活性化させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●親子が集えるスペースは確保されているか</li> <li>●多世代交流できるスペースは確保されているか</li> <li>●若者が過ごしやすい居場所・学習スペースは確保されているか</li> </ul>			
③過度な財政負担が将来世代に残らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●施設運営コストは削減されるか</li> <li>●維持更新費用は削減されるか(改修・改築費)</li> </ul>			
④既存の建物の有効利用、利用率を高める工夫、利便性向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多用途に利用できる施設になっているか</li> <li>●施設面積は削減されるか</li> <li>●施設の効率的な活用に繋がっているか</li> <li>●アクセスしやすい施設配置となっているか</li> <li>●歩いて行ける場所に集まれる施設はあるか</li> <li>●十分な駐車場は確保されているか</li> <li>●使いやすい駐車場は整備されているか</li> </ul>			
⑤災害に強く安全な地域をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安心して生活するため、災害時に避難できる施設はあるか</li> <li>●地域に備蓄倉庫は整えてあるか</li> </ul>			

今回のWSでみなさんからいただいた意見を基に、評価軸(案)を修正して、再配置案を課題解決の狙いごとに評価していきます♪



### 公共施設見学会のご案内

大江山地域実行計画策定後の農改センターのイメージを持ってもらい、WS等で活発な意見をいただくため、公共施設見学会を開催します。

- 日時** 9月27日(水) 午後1時30分～4時(午後1時20分集合)
- 集合場所** 大江山農村環境改善センター
- 見学施設** 曾野木コミュニティセンター、葛塚コミュニティセンター(バスで移動)
- 対象** 大江山地域在住の方または同地域の公共施設をご利用の方 先着20人
- 申し込み** 8月30日(水)～9月13日(水)に、FAX(025-228-3010)で、件名「公共施設見学会」、氏名、住所、電話番号を明記、または新潟市電子申請サービス「かんたん申込み」(右の二次元コード)で申し込み



みなさんのご意見やアイデアをお寄せください。いただいたご意見は、次回WSの検討内容に反映させます。

次回 第5回 10月15日(日) 午前9時～正午 大江山農村環境改善センター

### ご意見・お問い合わせはこちらまで

大江山地域実行計画コミュニケーション事務局

- 電話** 025-382-4619
- 郵便** 〒950-0195 江南区役所地域総務課あて(住所不要)
- FAX** 025-381-7090
- 電子申請** 新潟市電子申請サービス「かんたん申込み」(右の二次元コード)



## 新潟市 財産経営NEWS 広報紙 第5号

# 一緒に考えませんか? 公共施設のこれからを / 大江山地域のまちづくり

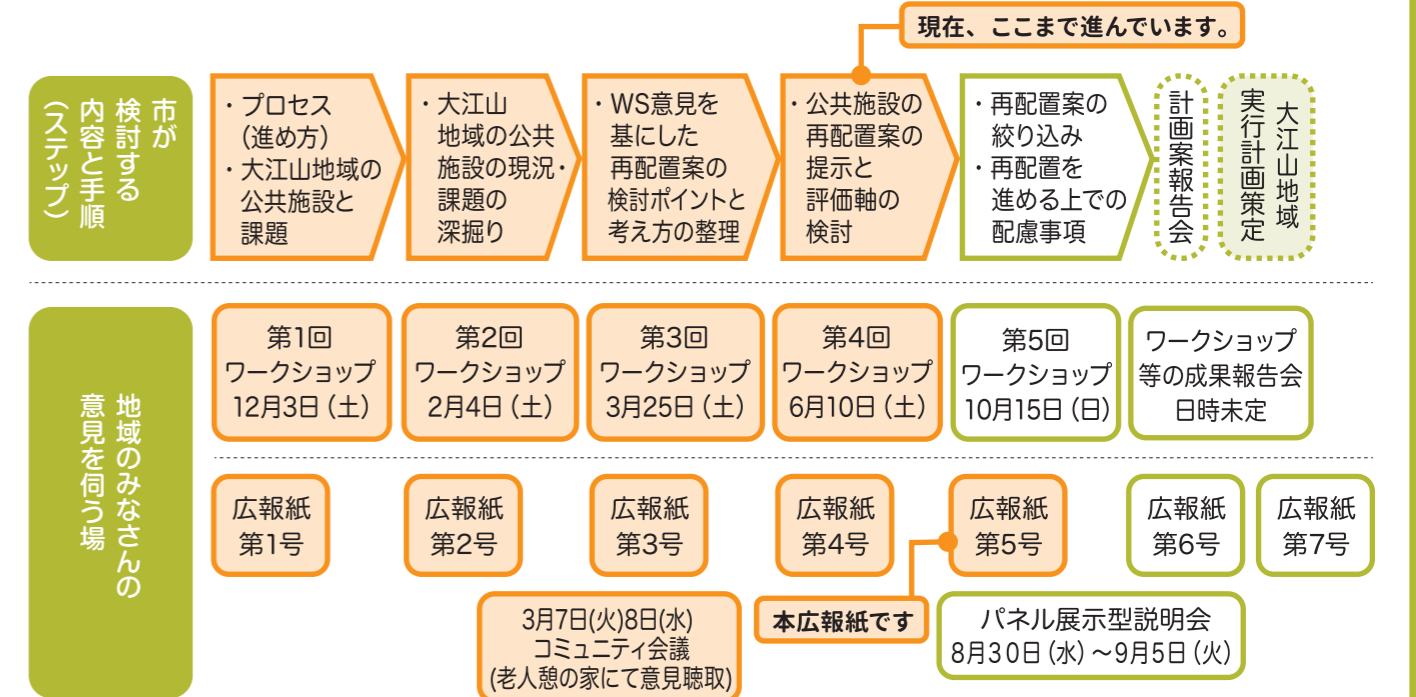
[発行者] 大江山地域実行計画コミュニケーション事務局 令和5年8月発行  
江南区地域総務課 ☎025-382-4619 財務部財産活用課 ☎025-226-2387

新潟市では、「財産経営推進計画」に基づき、地域の身近な公共施設については、地域のみなさんと市が協働で、そのあり方について検討しています。

大江山地域では、地域の活動拠点である大江山農村環境改善センターが大規模改修の目安である築40年を超えていることを機に、大江山地域の公共施設のあり方について、地域にお住まいのみなさんと新潟市が共に考えるワークショップ(WS)を令和4年12月から進めています。

## 大江山地域の公共施設のあり方について検討を進めています

第4回WS(令和5年6月10日)では、これまで出された大江山地域の公共施設の現状・課題と、第3回WSで整理した再配置案の検討ポイントと考え方を基に、再配置案を比較・評価するための評価軸と再配置案を検討しました。



### WSの概要

- 第4回 令和5年6月10日(土) 午前9時～正午
- 会場 大江山農村環境改善センター
- 参加者数 22名
- 資料 当日の資料は市ホームページ(右の二次元コード)に掲載しています。



## WS概要のパネル展示(オープンハウス)を実施します

これまでの検討状況をお知らせし、広く地域のみなさんのご意見をお聴きするため、市の取り組みやWSの議論の内容などをまとめたパネルを展示します。お気軽にお立ち寄りください。

- 開催日** 令和5年8月30日(水)～9月5日(火)
- 会場** 大江山農村環境改善センター

検討状況をより詳しく知りたい方向けに説明会も実施します。(申込不要)  
9月1日(金) 午後7時30分～8時、9月3日(日) 午前10時30分～11時



葛塚地域のパネル展示の様子

# 課題解決のための再配置案（たたき台）

第4回WSでは、これまでの話し合いをふまえ、課題解決のアイデアを整理して作成した再配置案の良いところ、気になるところ、不足しているところを話し合いました。

※「大江山農村環境改善センター」は「農改センター」、「老人憩の家」は「憩の家」と略記します。

※これらの案は実現を担保するものではありません。

WSの話し合いの概要は3・4ページをご覧ください。



## 案Aのポイント

「農改センターを現状のまま維持してほしい」、「農改センターは部屋数が多く広いスペースを確保」とのご意見から、現在の農改センターを最大限活用しながら多世代交流を図る。

## 案Bのポイント

「スポーツ、イベント等のためにも現状の広さのホールは絶対に必要」とのご意見や、「利用率の低いところは縮小統合」とのご意見から、多目的ホールを有効活用しながら、現状の利用に見合う多世代交流拠点をつくる。

## 案Cのポイント

「利用率の低いところは縮小統合に賛成。建て替えは必要な機能を取り入れた上で、面積を縮小するとよい」とのご意見から、農改センターを新たに建て替え、多世代交流拠点をつくる。

再配置案	案A	案B	案C
施設配置図 ※施設配置はいずれの案も同じ			
農改センター	◎現状の施設規模のまま存続	◎多目的ホールを残しながら、利用に見合う規模で整備	◎地域の要望に配慮しながら、他の地域のコミュニティ系施設(※)の規模に合わせて建て替え ※ここでは、新設されたコミュニティハウスの意
整備方法	●現状の施設規模のまま大規模改修	●多目的ホール:大規模改修、その他:大規模改修または建て替え ●施設規模を現状の約 2/3 程度(※)に整備 ※【施設規模イメージ】貸室2部屋程度(現在の農改センターの大研修室・小研修室各1部屋程度)と以下の機能を加えた整備	●施設規模は半分以下程度(※)とし、現施設を取り壊し建て替え ※【施設規模イメージ】貸室3~4部屋程度(現在の農改センターの大研修室・小研修室各1~2部屋程度)と以下の機能を加えた整備
多目的ホール	●現状の施設規模のまま存続		●廃止(現施設の多目的ホールは取り壊すが、建て替え後、施設の部屋を繋げるなど、広いスペースとしての利用は可能)
バリアフリー	●全ての貸室を1階に集約、トイレの整備、段差解消など	●トイレの整備、段差解消などのほか、必要に応じエレベーターを設置	●バリアフリーに配慮して整備するほか、必要に応じエレベーターを設置
調理機能	●利用率の低い料理実習室は、多用途に使える貸室へ転用(非常時やイベントなどで活用できるよう調理機能を一部存続)	●非常時やイベントなどで活用できるよう調理機能を整備	
図書室	●図書室を廃止 ●学習スペースの整備		
多世代交流	●親子や高齢者など、予約不要で誰もがくつろげるスペースの整備		
災害対策機能	●災害用倉庫の設置		
外構	●駐車場などの外構の整備		
連絡所	●存続		
コミ協事務室	●存続		
憩の家	●憩の家は風呂機能の設備改修が困難になるまで存続(農改センターが整備されるまでは、風呂機能が廃止されても、部屋の貸出を継続) ●憩の家廃止後、農改センターなどを活用(農改センター:誰でもくつろげるスペースを整備、バリアフリーに配慮)		
ひまわりクラブ	●存続(現状の施設のほかに、小学校の特別教室などを開放し、できるだけ広いスペースを確保)		
小・中学校	●存続(学校のあり方については、将来の児童生徒数の状況を踏まえながら、「新潟市小中学校の適正配置基本方針」に基づき、必要に応じて別途検討)		

# 第4回ワークショップで出された意見（抜粋）

## 1. 再配置案について 再配置案は見開きの2ページと5ページを参考にご覧ください

### 再配置案全般について

- 農改センターには予約なしで気軽に立ち寄り、誰かと会ったり、何もせずに個々にのんびり過ごしたりできる場所がほしい。
- 子どもや若者、子育て世代などが利用できる設備を整える必要がある。
- 農改センターは靴を脱ぎ履きしなくてもいいように土足で出入りできるようにしてほしい。玄関マットを置くなど、床が水濡れや汚れで滑らないよう工夫してほしい。
- 農改センターに貸し出し用の車いすなどが備え付けられるとよい。
- 農改センターの貸室を、間仕切りで広さを可変できる構造にしてほしい。
- 農改センターの料理実習室は必要だが、調理台は利用する頻度が少ないのもっと少なくて良い。
- 農改センター内にシャワー室を整備することは、運動後の利用に留まらず、災害時にも絶対に必要なので欠かせない。
- 大江山地区図書室の廃止について、親子での利用を考えると子ども用図書だけでも残してほしい。
- 農改センターにITの環境を整えることは非常に大切だ。子どもたちはIT活用が普通になっている。ITを利用したい人たちが集まる場になるとよい。
- インターネットで農改センターの利用予約を可能にするなどのIT化を進めるには、スマートフォンやタブレット端末を持たない人や、利用できない人へのフォローが必要である。
- 新潟市はIT化まで手が回らないのではないか。フリーWi-Fiなど設備の維持管理費も必要になる。
- 屋外で経済活動を行うことを想定しているのなら、駐車場などの広いスペースで行えると思う。
- 農改センターは指定避難所ではないので災害用倉庫（備蓄倉庫）は必要ない。
- 農改センターを災害時に避難できる場として、市民の認識を高めたい。
- 物資や備蓄をたくさん搬入することが可能な中央卸売市場を避難所として利用できるようにしたい。
- 備蓄倉庫は農改センターに置かず、指定避難所である、大江山中学校、丸山小学校、大淵小学校に置くべきだ。
- 現在AEDの設置場所は農改センターの施設内にあるため、施設利用時間外の緊急時には対応できない状況である。これを機に設置場所の再検討も必要である。
- 農改センターには太陽光発電設備が必要だと思う。電力を自給できて省エネであり、災害時も役立つ。
- 憩の家は利用者の減少や灯油代の高騰を踏まえ、廃止はやむを得ないと思うが、先代の思いを引き継ぎつつ、設備改修が困難になるまで、できるだけ長く存続していきたい。

- 農改センターの利用は、特定のサークルや人に固定されることなく、誰でも使いやすい施設の運営を行うといった住民サービスの視点を大切に、官民協働でソフト面の見直しが不可欠である。
- 農改センターの利用率を上げるために、自動車以外の交通手段を考える必要があり、区バスなどの公共交通を検討してほしい。

### 案Aについて

- 農改センターの駐車場を広くして増やしてほしい。

### 案Bについて

- 農改センターは多目的ホールを存続させ、大勢で集う場所が広く確保されるのがよい。
- 農改センターの多目的ホール以外を新しく建て替えた方が、ワクワク感があり、住民が納得しやすいのではないかと。
- 農改センターは現状の面積を維持できるとよいが、難しいようなら多目的ホールを残してほしい。
- 農改センターは今の施設をコンパクトにして使うことになるのでそんなに悪くないと思う。ホール以外を新しくするのも良さそうだ。
- 農改センターは全体の大きさが案Aの3分の2くらいで、必要な機能を備えているが、かなり狭くなると思われる。倉庫などのスペースも含まれるため、活動に使えるスペースが十分に確保されるのかを確認することが必要だ。
- 農改センターは利用率が低い部屋は集約してよい。
- 高齢者への対応を考えると農改センターは平屋がよい。
- 文化祭などの際に駐車場が足りないので、農改センターを減築した分は、駐車場として利用してはどうか。
- 農改センターの建物を減築した分の跡地は公園などに使えそう。
- 農改センターの多目的ホール以外の部屋は、利用者の声を聞いて具体的に機能や使い方を想定していく必要がある。

### 案Cについて

- 農改センターの多目的ホールは、利用率がもっとも高く、必要不可欠。他で補うことはできない。
- 狭いホールは使いづらいと思うが、若い世代は狭くても新しくておしゃれな建物がいいかもしれない。これから利用する20代、30代の若い世代の意見を聞いて再編案に反映させてほしい。
- 多目的ホールがなくなるとこれまでやっていた地域イベントやこれから開催する地域イベントの会場を新たに探す必要があるが、どこが使用可能なのを知りたい。また高齢者がその場所まで移動するための手段が確保できるかも心配である。
- 多目的ホールがない分、コンパクトな印象だ。貸室やロビー等の広さは案Bの多目的ホールを除いた部分と変わらないのではないかと。

- 農改センターを新築する場合は、部屋の壁を可動式にして広く使える部屋にしてほしい。
- 高齢者への対応を考えると農改センターは平屋がよい。

#### その他

- 自治会集会所が狭いところは、農改センターや亀田の公民館を使う場合もある。

## 2. 評価軸 (案) について 評価軸 (案) は6ページを参考にご覧ください

### 評価軸 (案) 全般について

- 「課題解決の狙い」は「評価軸 (案)」がもとになっているが、全体的に評価軸 (案) の文言が漠然として分かりづらいため、具体的にしたいほうがよいのではないか。

#### ① 地域のまとまりや一体感を形成する

- 住民同士が交流できる居場所は確保しているか
  - ▶ 「居場所」だけでは分かりづらい。「目的に合った部屋の様式と備品が整っているか」を加えてはどうか。
- バリアフリー施設となっているか
  - ▶ 「バリアフリー」というと、床が平らなイメージしか浮かばない。具体的に「多目的トイレや階段の手すりなどを備えたバリアフリー施設になっているか」としてはどうか。
- 多世代が交流できるスペースは確保されているか
- 幅広い年代が使える施設となっているか
  - ▶ 「多世代が交流できるスペース」というと、若者と高齢者が交流することが前提と捉えてしまうので、「多世代が使えるスペースになっているか」「多世代が交流しやすい安心・安全な見通しのよいスペースになっているか」としてはどうか。

#### ● 地域の拠点施設として活性化は見込めるか

- ▶ WSを重ねてきたが、何をもって「拠点」というかについて、評価軸に入れるには議論が足りない。

#### ② 子育ての環境、若者や高齢者の居場所をつくり、地域を活性化させる

- 親子が集えるスペースは確保されているか
  - ▶ 「若者や親子が来たいと思える場所 (設備) になっているか」も評価軸として加えたい。今後利用率を上げるためには若い世代が利用できる場所にしていくことが必要だ。
- 若者が過ごしやすい居場所・学習スペースは確保されているか
  - ▶ 「若者」はどの年代をさすのか曖昧。「過ごしやすい」という定義も人によって異なるだろう。これまでのWSで話し合った経緯から、「学生のための学習スペースが確保されるか」としてはどうか。

#### ③ 過度な財政負担が将来世代に残らない

- 施設運営コストは削減されるか
- 維持更新費用は削減されるか (改修・改築費)

- ▶ 農改センターの施設運営コストは約1千万円のうち、約5百万円が水道光熱費や建物管理費、残りの約5百万円が人件費ということだが、下げられるのか。例えば、光熱費の節約が活動の縮小になってしまわないか。評価軸には具体的に何のコストが削減されるべきかを入れてほしい。

#### ④ 既存の建物の有効利用、利用率を高める工夫、利便性向上を図る

- 多用途に利用できる施設になっているか
  - ▶ 「多用途に利用できる」に、販売行為は含まれるのか。「安心・安全な経済活動ができる場になっているか」にしてはどうか。
  - ▶ 農産物などの販売は大江山地域内に店舗や事業所があり、農改センターや憩の家で経済活動をする必要はないと考えるため、評価軸 (案) はなくてよい。
  - ▶ 「新しい技術で生活を便利にする (IT・暮らし)」は重要な軸になるべきだと思っている。

#### ● アクセスしやすい施設配置となっているか

- ▶ アクセスのしやすさは住んでいる場所により異なるため、どのように評価するかを表現にいらしてほしい。
- ▶ アクセスしやすい施設配置とするためには、自動車以外の交通手段の確保が必要だが、現時点で公共交通などの手段が少なく、評価軸にするのは無理がある。

#### ● 歩いて行ける場所に集まれる施設はあるか

- ▶ 農改センターから遠い所に住んでいる高齢者や若者は、この施設には来ない。評価軸に入れなくてよいのではないか。

#### ⑤ 災害に強く安全な地域をつくる

- 安心して生活するため、災害時に避難できる施設はあるか
  - ▶ 次代の農改センターを避難所にするのもよいと思うが、ハザードマップなどを見直し、情報を整理した後に検討することになるので、今回は評価軸に入れる必要がない。
- 地域に備蓄倉庫は整えてあるか
  - ▶ 避難所に指定されていない農改センターに整備することを討議することはナンセンスだ。「災害に強く安全な地域をつくる」を評価軸に入れる必要はない。

## 3. 検討の進め方について

- 再配置案ごとに意見を求められても、中身の詳細が示されていないため、とても意見が出しづらい。
- 案Cはどのような建物になるのか、文字情報だけではイメージが湧かない。
- 新しくなる施設について考えるために、近隣の類似施設を見学したい。
- 話し合いが面倒だと感じている。一方で住民が何もしなければ遅れた地域になるだろう。
- 話し合いはやめたらいいと思う。私たちが一生懸命意見を出しても、結局は市が決めることだ。

**【お詫びと訂正】**

本紙の 6 ページにあります二次元コードについて、9 月 1 日よりシステムの入替えによりご利用ができなくなります。

つきましては、お申込み、ご意見・お問い合わせについては、以下の二次元コードをご利用ください。  
お詫びして訂正いたします。

《公共施設見学会お申込み二次元コード》



《本紙のご意見・お問い合わせ二次元コード》

